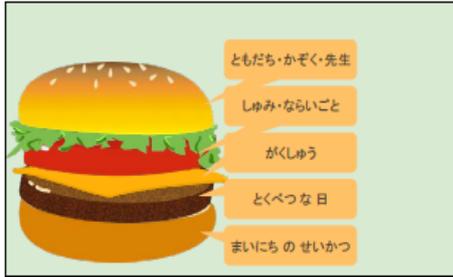




学校だより

令和5年度 号外
令和5年12月22日

12月22日に子ども達に話したこと



日頃から三小の子ども達には、自分の成長には、一番下のバンズである「毎日の生活」の充実が必要不可欠であることを話し続けています。

三小の子ども達の「毎日の生活」は充実しています。保護者の皆さんのおかげです。



今日までに「パーティ」や「チーズ」として様々な行事や体験を積み重ねられました。

けれども、今回「一番上のバンズ=人間関係」は不釣り合いに小さくして見せました。



その理由は、「みんなが安心してがんばれる高洲三小」を作るための「5つの大切なこと」のうち

- ①みんな違うことを知ろう
 - ④いじわる・なかまはずれ・わるぐちをしない
- の2点が不足していること、実際に起こってしまったことを伝えました。

子ども達に「いじわる」「なかまはずれ」「わるぐち」をすることはどのようなことかをイメージしてもらうために、次の画像を示しました。



画面に笑顔を描いたハートマークを表示します。「バカ」「キモイ」「臭い」などの悪口を言うたびに、くしゃくしゃに紙を丸めていきます。



謝罪をします。「ごめん」「もうしない」などの言葉あわせて、しわを伸ばします。最後まで広げても、しわや破れは元に戻っていません。

「口にしたこと、やってしまったこと」は「なかったことにはできない」こと。また、傷つけられてしまった人が親や先生、友達と過ごすことで、時間はかかっても、しわや傷は必ず治ることを伝えました。

傷つくことにも、その傷をいやすことにも「人とのかかわり」が関係しています。生きていく上では、「人とのかかわり」を避けては通れません。だからこそ「言葉のかけ方」や「してはいけないこと、やってはいけないこと」などを子どものうちに学ぶ必要があるのです。

それは子供たちが豊かな人生を送るための「一番上のバンズ」であり、それがわいしょう矮小で不十分であれば「人生の具」はパサパサに渴いてしまいます。



これからの言動なら変えられる。自分で決めることができることを伝え「みんなが安心してがんばれる高洲三小」を作るため、一緒に頑張ろうと伝えて話を終えました。

学校生活での出来事は、すべてが「まなび」です。子ども達には、出会いに恵まれた豊かな人生を送ってほしいと願っています。それは、どのご家庭も同じでしょう。

子どもですから彼らは間違えます。その時に、周りにいる大人たちは「どうしてその行為はいけないのか」「どのような意味をもつのか」教える義務を負っているのだと私は思います。叱りつけて怖い思いをさせてわからせようという方法は適切ではありません。たとえ、幼い子どもであっても正しい言葉で諭すことが大切です。大人の真剣な態度や姿勢から、必ず子ども達は本質を感じ取ることができます。

出会う人たちと親交を深め、切磋琢磨して成長し人生を謳歌してほしいものです。小中学校時代はその基礎作りの時代です。

また来年、新たな気持ちで「安心してがんばれる高洲三小」を子ども達とともに作り上げてまいります。